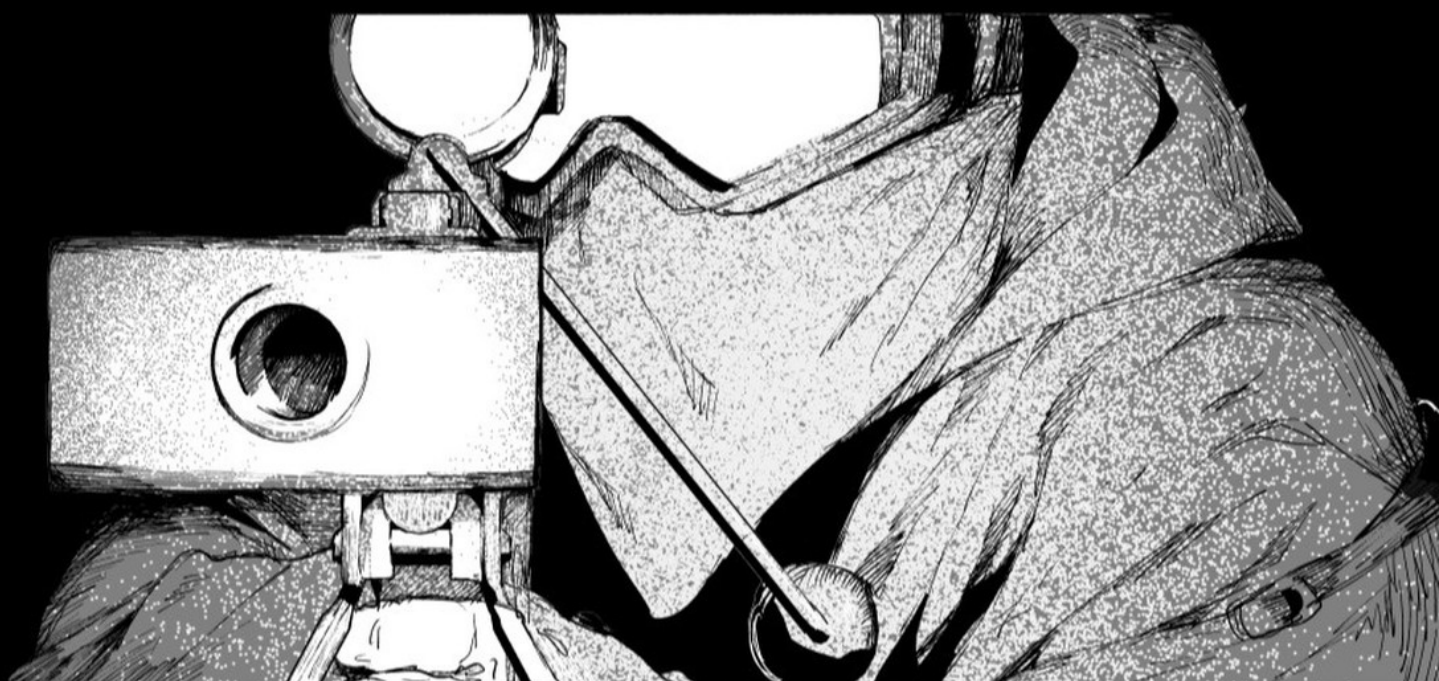




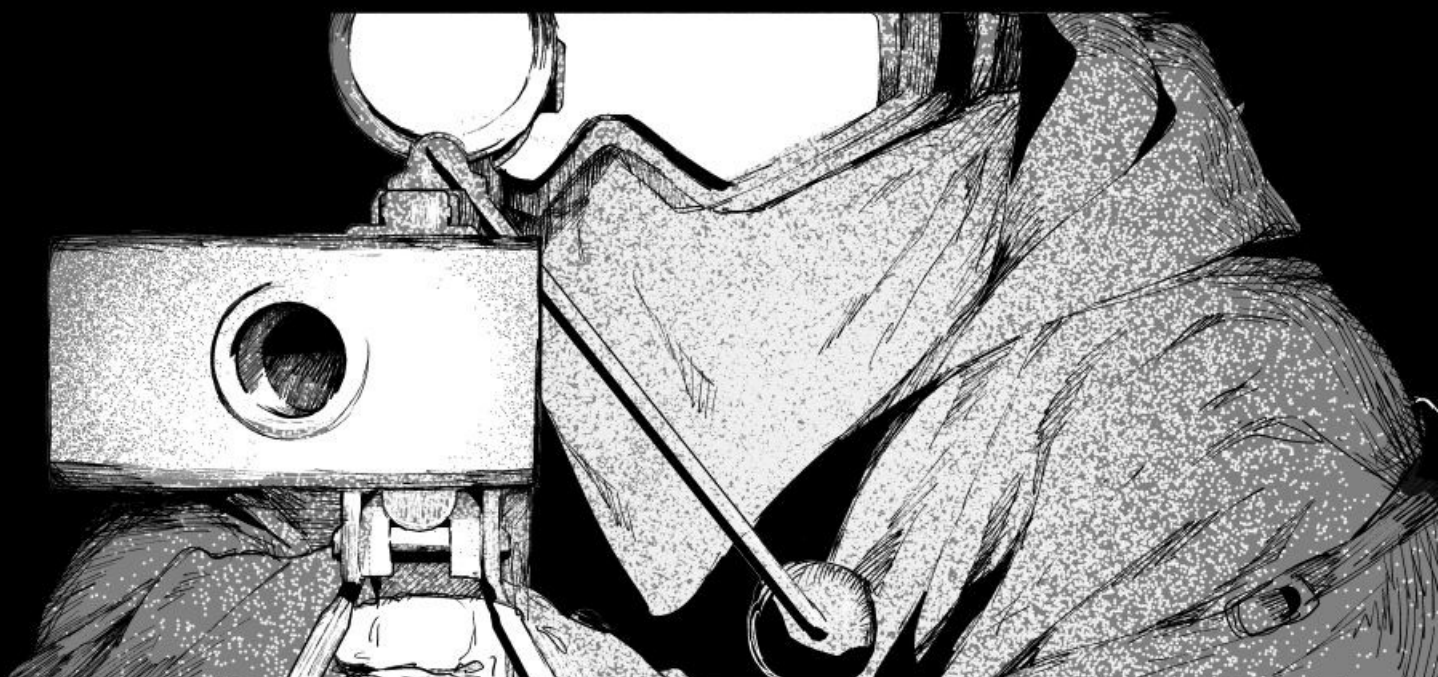
某国の擁するスナイパー

通称《^{ゴースト}姿なき狙撃手》

6年前から活動を
始めたと見られ、
これまでに数多の戦況を
引っくり返してきた。

いつしかその人物は
戦場の英雄——
あるいは悪魔と
呼ばれるようになった。

その人物が
撃ち殺してきた人数は
数千に及ぶとも
言われている



決して人前に姿を現さず
味方の兵士すらも
その人物を知ることはない。

「戦線に復帰した
歴戦のスナイパー」——

「開発された
新型のAI狙撃兵器」——

「巧みに生み出された
架空の存在」——

噂は様々に飛び交っている。

この女が
数え切れぬ程の
我が同胞たちの
命を奪った
悪魔——
《ゴースト》!!



只今から
処刑を始める!!

こいつが本当に
あの《ゴースト》
なのか……!?

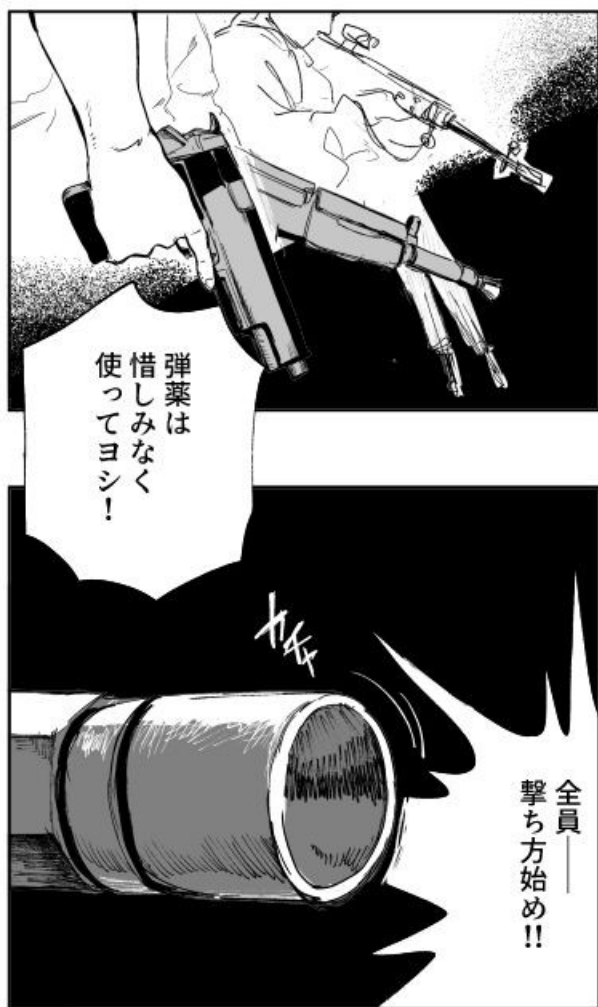
まさかこんな
若い女子
に今まで……

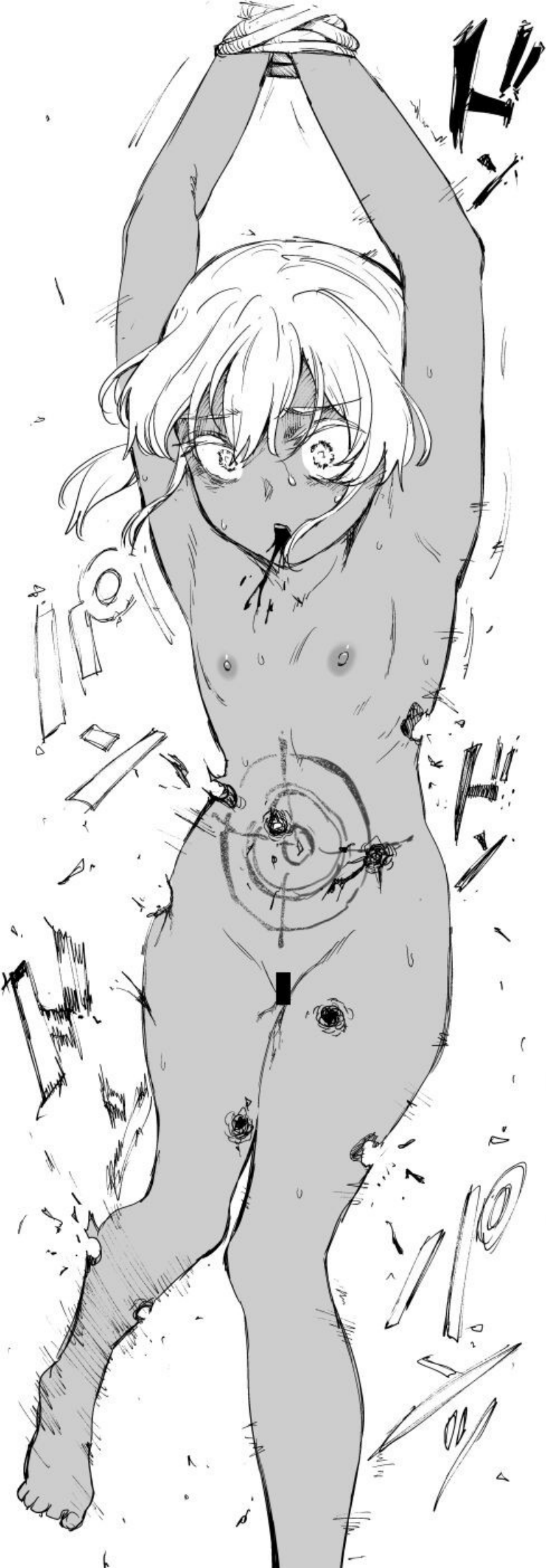
あんな
カワイイ顔
してなあ……

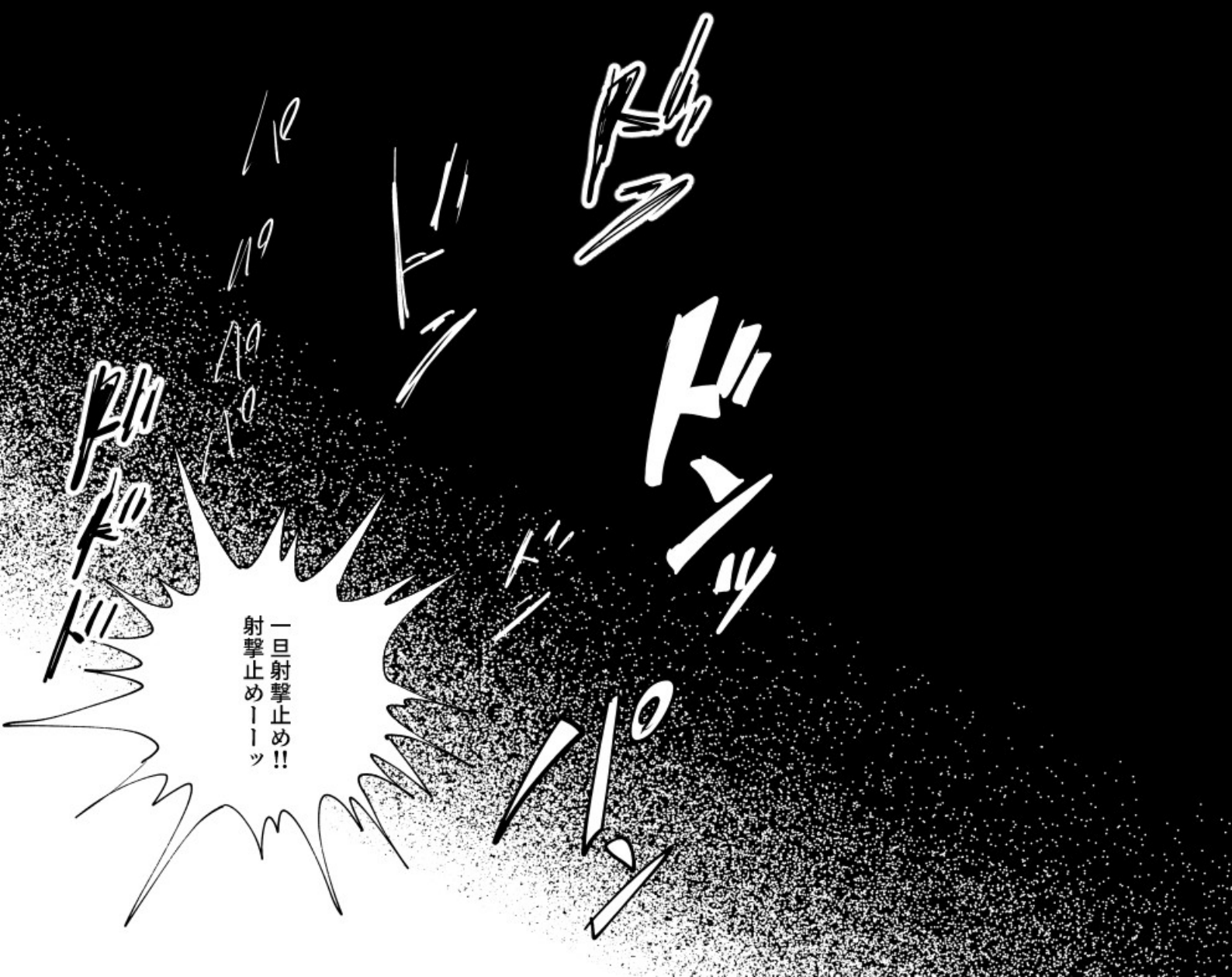


弾薬は
惜しみなく
使ってヨシ!

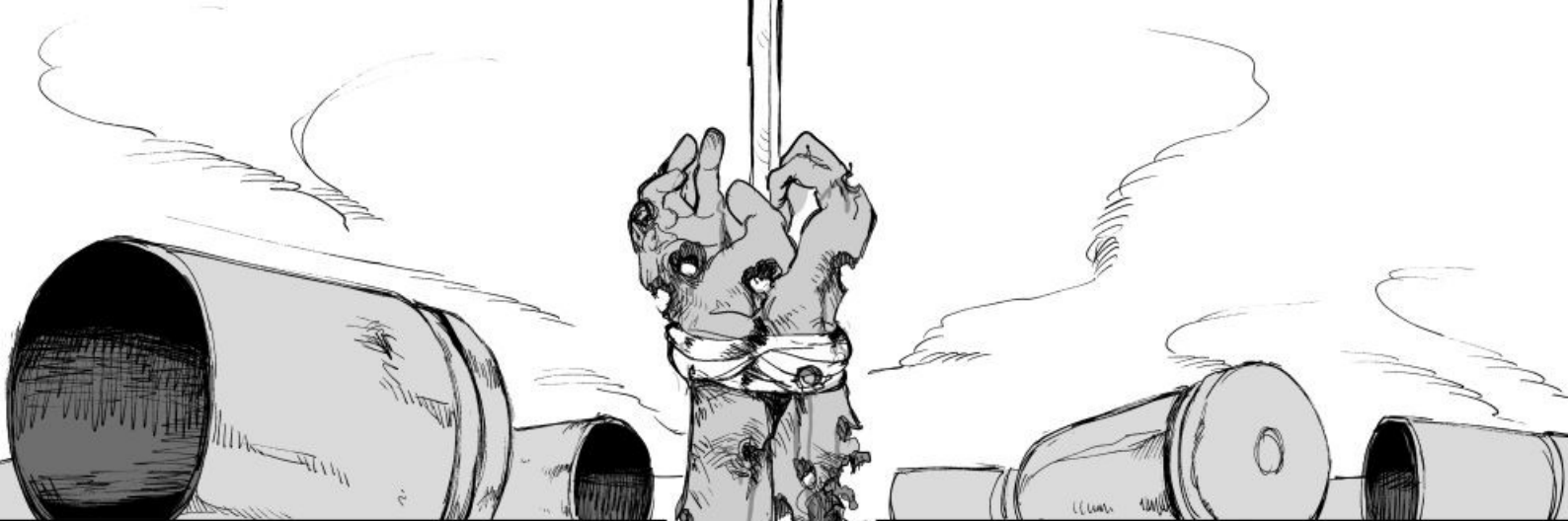
全員——
撃ち方始め!!







一旦射撃止め!!
射撃止めーッ



「死亡確認ッ」

「これが伝説の
最期とはな」

「俺の娘と
そんな変わらない
くらいの歳
なのになぁ……」

「こんなもんじゃ足りないだろ。
俺たちの仲間に
撃ち込んできた弾丸の分を
この体で償わせないと……」

「発砲再開だ！
その姿なくなるまで
破壊し尽くすのだ!!」

「もう的の部分
なくなっちゃったよ……
次は皆で首落としてみね？」

カル・マニスタ(16)

見捨てられたその地区は
とっくに敵軍の占領を
受けているはずだった。

敵軍を食い止めていたのが
たった一人の民間の
スナイパーであったこと……

そしてそれがまだ
10歳にも満たない
少女だったことは
軍の人間の度肝を抜いたのだった。

以来彼女は軍に飼われ、
スナイパーとしての英才教育受けながら
戦場で活躍し名を挙げていった。

人前に姿を見せないスタイルから
《^{ゴースト}姿なき狙撃手》と呼ばれるようになる。

現在は読み書きの勉強をしている。

